



吉原美智恵議員

集落の健康診断は？

町長 呼びかけを続けていく



あなたの集落も健康診断を

問

今年度の目玉施策として、住民自治組織の取り組みが、具体的な作業に入っている。

「集落の健康診断」は168集落のうち、18の集落が終わった。

広報だいせんのアンケートによると、この事業の満足度は50%、重要度も60%と低い。

今のように、希望する集落へ出向く方法でよいのか。

答

森田町長

「集落の健康診断」は、住民の認識がまだ低いという理解はしている。

町民の視点に立ったまちづくりの中で、集落に軸足を置いて、まちづくりにつなげていこうと考えている。

集落のことを自分たちで守り、積極的な意志表示ができるよう、呼びかけていく。

問

本町では、今年3月に食育推進計画が策定された。

食の大切さや、健康な体をつくる重要さを子どもに教えるためには、保護者や地域のひととの連携が必要である。具体的な進め方は。

また、給食で地元食材を積極的に取り入れていく仕組みは。

答

伊澤教育委員長

子どもが、食の正しい知識と習慣を身につけら

れるよう、積極的に取り組んでいる。

具体的には、朝食の大切さや、給食で栄養・食の安全・食事のマナーを、子どもと保護者に伝えている。

また、食材への理解を深めるため、農作業体験も取り入れている。

地産地消は、県の「学校給食用地産地消支援事業」を活用し、8月から、地元産品の仕入れに取り組む。

食育の取り組みは？

教育委員長

積極的に進めている



名和中学校のランチルーム

子宮けいがんの予防は？

町長 慎重に検討する



中学生からワクチン接種を

問

子宮けいがんは、20〜30代の女性に一番多いがんである。ウイルス感染が原因と

答

森田町長

され、ワクチンが日本で接種できるようになった。海外では、100以上の国で接種されているが、予防接種には、4〜5万円という高額な費用がかかる。大切な母体を守るために、助成の仕組みは。

このワクチンは国が勧める「定期接種」ではなく「任意接種」であり、積極的な接種は勧められておらず、慎重に検討していく。